

国連アジア極東犯罪防止研修所第148回国際研修に参加して

スーダン（南スーダン）矯正局更生保護課保護観察官
ヨクエ・トマス・シリロ

研修参加者を代表し、第148回国際研修に参加の機会をいただいたことに対し、深く感謝申し上げます。

6週間にわたる研修もいよいよ最後となりました。その間、私たちは、知識を深め、経験を分かち合い、薬物犯罪と薬物依存を有する犯罪者のもたらす諸問題の解決法につき議論してきました。そして、個人発表、国内外の専門家による講義、関連機関への訪問等を通じて、「薬物犯罪者処遇：新たな取組」という本研修のテーマに取り組んで参りました。

ここで改めて、研修参加者を代表し、全ての講師、職員及び機関に対して、お礼を申し上げます。皆様の貢献と各種の見学——麻薬取締部、東京地裁、最高裁、横浜刑務所、東京保護観察所立川支部等における説明と質疑——、また、法務大臣表敬、事務次官招宴、保護司との意見交換会等を通じ、私たちは、皆様の知見に触れ、深い学習経験を得ることができました。

また、京都・広島への研修旅行は、日本の歴史的・文化的遺産と、それを未来の世代に残そうとする日本の皆様の真摯な姿勢に直接触れる、またとない経験となりました。その間、広島保護観察所、中国地方更生保護委員会、島根あさひ社会復帰促進センター、更生保護施設「ウィズ広島」を訪問したことは、日本の刑事司法の実情をよりよく理解する助けとなりました。

全ての活動を支えていただいたJICA及びアジア刑政財団の御協力にも、感謝いたします。また、東京、横浜、広島、そしてここアジ研において懇親会を催して下さったアジア刑政財団のおもてなしの気持ちに対して、御礼を申し上げます。

また、私たちは、ラウンジB及びラウンジAにおける交流とパーティーを大いに楽しみ、これらを通じて、研修参加者同士、また、アジ研職員との間に強い絆を結ぶことができました。地元のボランティアに企画していただいたホームビジットやお茶会は、日本文化に触れる思い出深い体験になりました。

参加者それぞれのニーズに応じて、快適な宿泊、設備及びサービスを提供するため、舞台裏で働いてくださった皆様にもお礼を申し上げます。また、6週間にわたり、おいしくて栄養のある食事を用意して下さった皆様に賞賛することに対し、誰にも異論はないものと思います。

また、異国で学ぶ私たちを、手間ひま惜しまず助けて下さった日本人参加者の皆様にも感謝申し上げます。おかげで、私たちは、あたかも自国にいるかのような気分で過ごすことができました。この6週間を通じて、私たちの間には、終わることのない友情の絆、尊敬の念、相互理解、そして協力関係が生まれました。それは刑事司法の理想を追求する実務家のネットワークの構築につながるものであります。理想の追求という目的のため、お互い協調・協力しようではありませんか。

さて、ここで正直に申し上げます。

3月に日本を襲った大震災のことを耳にしたとき、私たちの多くは、この研修が本当に実施されるのか疑わしく思いました。というのも、日本からのニュースが痛ましいものばかりであったからです。しかし、アジ研に到着するや、そのスタッフが、大きな困難の中にありながら、逆境に負けることなく、しっかりと、そして真剣に研修を実施しようとしていることが分かりました。

そこで、最後になりますが、本研修実施のために尽力された全てのアジ研教官と職員各位に、感謝を申し上げたいと思います。特に、この研修の運営を担当された脇本教官、左近司教官、笹部さんに、そして、コーディネーターの北さんに深謝申し上げます。皆さんは職務熱心で、常に忙しかったにもかかわらず、研修の期間中、いつも私たちのそばにいて下さいました。

皆さん、前途に課題は山積しておりますが、私たちは、本研修のおかげで、それに対処する力をいただき、困難に立ち向かう用意ができました。私たちは、この豊かな学習成果を現実に反映させるため、それぞれの国において努力して参ります。

この素晴らしい国と、その人々に、また、私たちの全てに神の御加護がありますように。

ありがとうございました。